

第1回神奈川県立県民ホール再整備基本構想策定委員会 議事録

日時：令和7年5月13日(火) 9:30～12:00

場所：神奈川県庁本庁舎3階 大会議場

○黒岩知事あいさつ

本日は、第1回神奈川県立県民ホール本館再整備基本構想策定委員会にお越しいただき誠にありがとうございます。県民ホールはご存じの通り開館から50年が経過し、非常に老朽化している。これまでも何度も改修を重ねてきたが、いよいよ限界かということで、全面的な建替えを決定した。3月末をもって休館したが、「ありがとう神奈川県民ホール」と銘うって、様々なコンサート等を行い、私自身が改めて実感したのは、神奈川県民ホールがいかに県民の皆様から愛されていたのかということである。

お客様もだが、演じられる方や色々な形で関わる方、皆様が県民ホールを愛してくれてきたことをつくづく実感した。

残念ながらすぐに建て替えるというわけにはいかず、横浜市の都市計画との関連もあるので、若干の時間がかかると思う。

どんな形で建て替えるか、私はグランドフィナーレで最後舞台に立ち、皆様に約束した。みんなで新しい県民ホールをつくっていきましょうということ、そしてできる限り早くつくり変えたいと思っているということをお話した。

「みんなでつくる」ということは非常に重要なキーワードだと思っている。偉い建築家の先生がやって来てパッとつくるというのではなく、色々な立場の方が、障がいをお持ちの方にしても、あらゆる角度から意見が集まってきて、それをもとにしながらつくっていくという流れをしっかりと作りたい。

本委員会には様々な分野に精通された専門的な方々にご参加いただいている。まずは、皆様の知見をいただいて、その先には幅広い県民の皆様の意見を吸い上げ、みんなが納得できる、そしてみんなが自分達でつくったという想いを持てる県民ホールをつくっていききたいので、よろしくお願いします。

1 開会

- ・事務連絡、資料1に基づき事務局より説明、委員紹介

2 議題

議題1 会議の公開・非公開の取扱いについて

- ・会議を公開とし、傍聴者3名が入室する

議題2 委員長・副委員長の選任について

- ・委員長に稲村委員、副委員長に石田委員を選任

○稲村委員長

個人的に県民ホールには特別な思いを持っている。10代の頃から県民ホールには通わせていただいていた。他にも外部評価委員として評価させていただくなど関わらせていただいている。

私たちの想いを次の世代へと伝え、県民ホールが孫の世代にも夢を育む場であったり、表現を楽しむ場、人と繋がる場であってほしいと願っている。

新県民ホールについては県の文化政策の中心として、良い施設になってほしいと思うので、委員の皆様も忌憚のない発言をいただければと思う。よろしくお願いします。

議題3 神奈川県立県民ホール本館再整備基本構想骨子（案）について

- ・資料3に基づき、事務局より説明

○稲村委員長

骨子案についての意見をお願いします。

○小林委員

建替えということだが、現敷地に建て替える想定か。

○事務局

基本的には現敷地での建替えを検討している。現在、横浜市で周辺のまちづくりを検討しており、その中で話ができれば移動するという可能性もあるが、現時点では未定なので、県としては現敷地での建替えを前提に考えているので、変更があればご案内

させていただきたい。

○小林委員

今まで多くの事例に携わってきており、建設予定地で揉めるのはよくあるパターンなので確認をさせていただいた。

横浜市の方向性はいつ頃出るのか。今後の規模や客席数を検討するにあたり重要な話だと思う。

○事務局

まだはっきりしない部分があるが、元々横浜市のまちづくりのビジョンについては昨年度中につくる方向で進んでいると聞いていた。まだ発表になっていないが、1年先とか2年先ということはないと思われる。条件が整い次第何らかの方向性が示されるところを考えている。

○雲龍委員

今後の検討にあたり、県の条例やここは気にしなければならないなど、既に決まっていることがあれば教えていただきたい。

○事務局

基本的にはこの基本構想策定委員会の中でご議論いただくことを考えているが、これまで県で検討を進めている中で整理し、議会答弁の中でお話しさせていただいているのは、海外の大型のオペラやバレエを上演できる劇場が県内では県民ホールが担っていたということがある。そういった役割は新しいホールでも担っていけるものをつくっていききたいということは発表させていただいている。

また、これまでの課題としてバリアフリーに関して、2階以上の客席に行くエスカレーターがないとか、県民の皆様から多数のご意見をいただいているので、そういったバリアフリーに配慮した施設にしたいということも既にお話しさせていただいている。

○佐藤委員

私は専門が建築なので、その視点から質問する。「6 施設整備」について、施設の概要については、現状の県民ホールの規模をそのまま維持するのか、それとも何かが縮小されたり、機能が足される想定があるのか。

また、「(5) 整備手法」にも関わるが、最近建設費が高騰していることが話題になっているが、その中で整備手法が非常に重要なポイントだと思う。PFI など民間を加えて進めていく可能性があるのか。それにより、民間からの事業提案によって、施設の内容が変わる可能性があるのか、お教えいただきたい。

○事務局

基本的には今の県民ホールの機能を維持するということではなく、「5 基本方針」で、まず県のホールとしてどういう役割を持つべきなのか、先ほど申し上げた海外のオペラができるなど、県のホールとして何が必要なのか、どういった役割が求められているかを整理したい。その上で、どういったホールが必要なのか。例えば、大ホール、中ホール、小ホールが必要だとなったところで、そのためにはどういう手法がいいのかという形で考えていきたい。

現段階で手法として例えば PFI を前提として考えるということではなく、まずは役割から考え、最適な施設の内容や、それに合う手法を検討していきたいと考えている。そのため今は事務局で想定している手法等はない。

先ほど海外のオペラやバレエの公演ができるホールということをお話しさせていただいた。これまで予備調査や関係者へのヒアリングを行っている中で、大きな興行を行うための機能として、例えば現在は座席数が 2,500 席の大ホールだが、それを必ず維持するということではないものの、一方で興行をされる方々からは 2,000 席以上はほしいというご意見もいただいている。そういった情報はこちらからご提供させていただいた上でご議論をいただければと考えている。

○石田委員

自己紹介を兼ねて発言をさせていただきたい。昭和音楽大学に所属、アートマネジメントを学ぶ学生達に授業をしており、劇場や音楽堂に多くの卒業生を送り出してきた。彼らの働く環境に非常に大きな関心を寄せている。また、東京藝術大学でオペラ歌手をはじめとして舞台芸術を牽引する芸術家たちの育成に関わっている。彼らのキャリア形成は日本では非常に不安定な状況にあることを懸念している。

また、国の文化審議会に所属している。この会議に直接関わる議論をする文化施設部会、文化施設の劇場・音楽堂等ワーキンググループに携わっているが、そこでのテーマは、まさにここで今これから議論されるようなことと並行して皆様と考えていきたいと感じること。つまり館の役割がこれからどうなっていくのか、特に人口減少時代、館を支える状況がどんどん変わっていく中で、これから大きな館をつくろうとさ

れている。そういったことで、この会に参加することに非常に意義を感じている。

骨子案についてだが、一番重要なのは「5 基本方針」。おそらくこの委員会の方々の知見を集めればとても良いものができると思う。それを現場で運用していく側にとっても良いものであるように考えていきたい。アイデアや理想があったとしてもそれが現場に落としこまれた場合、あるいは神奈川県の中で、どのように実現性が高いものにしていけるかが非常に重要だと思う。「(1) 基本方針：県民ホール整備の目的」に関しては委員会で徹底的に話をしていく必要があり、最重要事項のひとつだと思っている。

また、「6 施設整備」だが、専門的知見が必要になる部分だと思う。特別委員にこういう専門性が必要なのかを皆さんと共有したい。設備を使う方というのは主催者だけではない。主催者がプロジェクトを組んで実際に舞台を動かすには色々な力が必要。そういった方々の話も聞くべきではないかと思う。

施設整備に関しても勿論建築の専門家などの豊かな経験をお借りするとともに、現場で使う人の話も聞きたいと思う。

○稲村委員長

基本方針が最重要とのご意見をいただいた。この委員会で何を重点的に話すかも重要で、委員の皆様で共有したいと思うので、石田委員に重ねてでもいいので、ご意見をいただけたらと思う。

○宮崎委員

私は元々、神奈川芸術劇場の立上げの時に構想を作るというところからお手伝いをしたことがある。開館後はしばらく運営にも携わり、県民ホールの事務所でも数年働いていた。今は別の自治体がつくるホールの準備を行っている。現場の側にいた立場として構想づくりに貢献できればと思う。

少し大きいことでいうと、運営を始めると、「このホールはこうあるべきだ」ということや、無意識の先入観や、構想を作った時の限界といったものが、かえって新しい創造や柔軟な運用の芽を摘むことがある。だからこそ、この構想ががっちりとした、工夫の余地がない構想にするのではなく、これから色々な人がこのホールに関わることになるので、未来の運営者やアーティスト、県民、職員などそれぞれの方が創意や知見を発揮して一緒にホールを運営できる土台となるような構想にしたいという想いをもって参加させていただいている。

できることなら、この基本構想自体が面白いものになってほしいと思う。これを読むと県民の方々や色々な方々が、私も関わってみたい、ここができそう、という文章が随所にあるとよいと思う。

内容についてはこれから議論があると思うが、一体誰が運営するのかというのが、私がいま直面している運営者の立場なので、そういったところまである程度計画の時に基本的な考え方を示し、運営者に委ねる部分もたくさんあってよいと思うが、ここは譲れないという部分を書けたらよいのかと思う。

また、冒頭に知事が「みんなでつくりましょう」ということをおっしゃっていたが、その「みんなで」というのは、構想をつくる時にどうやっていくかなど想いがあるのかお伺いしたい。

また、実際に再整備に至るプロセスの中でこの基本構想は何歩目くらいになるのか。先の見通しもお聞きしたい。

○事務局

「みんなでつくる」という意見については、事務局で意見を色々な方法でこれから伺っていきたいと考えている。集約できた段階で随時委員会にご報告させていただき、皆様でご議論いただければと思う。

また、基本構想がどの段階かということだが、まず今年度中に基本構想を策定したいと考えている。その後、基本設計に入り、詳細な実施設計、工事に進んでいくと考えている。

○笹井委員

私はエンターテイメント研究ということでこの場に参加させていただいているが、先ほど石田委員がおっしゃったように、今の段階で基本方針、理念が大事だと思っている。私の立場から言うと、ぴあ総研で、文化芸術というよりは、人が集まるイベントについて、年間の開催回数やチケットがどれぐらい売れているか、どれぐらいチケット収入があるかなどを20年ほど調査している。人が集まるという意味においては、文化芸術やエンターテイメントの境目が個人的にはそこまでなく、それを決めるのはご覧になる方や作り手の方々だと考えている。

また、ぴあ株式会社ではみなとみらいの土地に民設民営でぴあアリーナMMを2020年に設置し、運営させていただいている。我々が目指しているのはみなとみらいや横浜市、神奈川県など、まち、地域との連携を重要に思っているのです、そういう意味で

民間との連携であったり、そういった観点でも基本構想の理念などに自分なりの見解を申し上げさせていただければと思う。

一方で、やはり民間の立場から言うと、公共性の確保は大事であるし、文化芸術を守ることも大事だが、経済性とどう両立させていくのかという観点も、今後管理運営や施設整備の段階に進む時に必要になると思う。

○稲村委員長

骨子案だけ見ると分からないところもあり、劇場を考えていくときに、文化芸術の周りを取り巻く外部環境的なことについて、資料の中で共通認識が持っていないところもあるのではないかと思います。他に意見や質問はあるか。

○石田委員

事務局に質問させていただきたい。以前委員宛てに「神奈川県立県民ホール本館のあり方に係る予備調査」の報告書をいただいたが、どう受け止めればいいのか。

○事務局

あくまでも委託の結果として示された案になる。

○石田委員

調査結果にかなり具体的に案が3つ示されている。県の考えが入っているのかと考えていたが、いただいた試算は柔軟く受け止めてよいということで了解した。

○吉野委員

私は東京大学の工学研究科の建築の専門で博士後期課程の研究をしており、近代建築の歴史を専門としている。その中には劇場やコンペティションに関わることも含めて、近代建築の歴史について研究をしている。それが私の仕事の半分で、もう半分はオペラを中心に演出、演出助手として公演に関わっている。最近だとびわ湖ホールや、新国立劇場で演出助手を務めた。神奈川県民ホールでは、昨年度のローエングリンの時にも演出スタッフとして参加していた。箱の側と現場の側と、両方の視点から貢献できればと考えている。

質問させていただきたいが、設計者の選定がどのように行われるのか。コンペなどが行われるのか。コンペを行うと設計者からも色々な提案が出てくると思うが、その後のことに関して我々がどのように関わられるのかを含めて、現段階での想定をお教えいただきたい。

○事務局

先ほど基本構想のあとに基本設計と申し上げたが、基本構想の後に基本計画を策定し、その後に設計に入っていく流れになるので訂正する。

事業者の決定にあたっては整備手法によってやり方が変わってくる。一般的には一般競争入札ということで事業者が決まるかもしれないが、PFIだと違うやり方があるかと思うので、整備手法についても、ご提案いただければと思う。

○長門委員

私は美術の分野の立場で参加させていただいている。県民ホールというと劇場ホールの話が多くなるが、県民ホールにはギャラリーという重要な要素もある。そのあたりも県民ホール全体をつくるに当たり、今までのギャラリーの位置づけと今後についてもきっちり検討したいと考えている。

○稲村委員長

ギャラリーも重要な要素だと思うので、この中で議論していきたいと思う。

他の部分で骨子案に加えた方が良い視点があればご指摘いただきたい。

○雲龍委員

現県民ホールの施設の中で、レガシー的に残すものはあるのか。

○事務局

大きな問題としては骨子にもあるとおり、パイプオルガンがどうなるかは注目されている部分なので考えていきたい。それ以外についてはどうしても残さなければならぬものはないと考えている。あるとしたら、例えば地下に出演者のサインがあり、県民ホールの歴史のひとつなので、どうしていくかを考えねばならないと思う。どこまでこの委員会の中で議論するかは現時点では考えがまとまっていないが。

○稲村委員長

レガシーや伝統、県民ホールがこれまで担っていたことをどう継承していくかは非常に重要な部分なので考えていきたい。

○金田委員

公募委員として参加させていただいている。骨子案にプラスして議論することとし

て、先ほど事務局からみんなからの意見を吸い上げるとあったが、どのような手法で吸い上げていくのか、想定があれば教えていただきたい。

○事務局

一つはこれからになるが、アイデア箱という形で、ホームページにてパブリックコメントとは別の形で皆様からご意見をいただけるところを作ったり、また、「こんな県民ホールがあったらいいな」という皆様の夢を絵などにして募集できるような取組などを検討しているところ。他にも様々な機会を使って、できれば県民ホールをこれから利用する、足繁く通うような若い世代に対して意見を聞けるような取組を考えていきたい。

その他、順次関係団体へのヒアリングも予定している。また、ご報告させていただきたい。

○稲村委員長

それでは、一通りご意見を伺ったので、議題3についてはここまでとする。また後でご意見があれば加えてほしい。

議題4 各回の検討内容（案）について

- ・資料4に基づき事務局より説明

○稲村委員長

検討する上で二つポイントがあると考えている。一つは検討内容で時間をかけて議論すべきことは何かということ。もう一つは特別委員について。まずは検討内容について意見いただきたい。

○吉野委員

「5（3）県民ホール運営」の中で職員数や組織運営のあり方について議論する必要があると思う。それと同時に「7（1）管理運営の基本的な考え方」で主催事業や提携事業などについて議論する必要があると思うが、この二つの項目の間に相互関係が強いのではないかと考えている。実際ホール使っていく若い芸術家や市民団体のことを考えたとき、例えば滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールが声楽アンサンブルを有していることや、静岡のSPAC（静岡県舞台芸術センター）のような主体的に劇場運営をしている事例を見るに、組織運営と事業のあり方に密接な関係があるという前提から、総合的に検討する機会があるとよいと思う。

○事務局

基本的に「5（3）県民ホール運営」でベースになるような考え方の整理をした上で、「7（1）管理運営の基本的な考え方」に落としていければと思うので、総合的にお互いを見ながらの検討になると思う。

○小林委員

ぜひ聞きたいのは、今回文化芸術のためのホールやギャラリーをつくる上で、関連の方々や県民の意見を聞くのは当然として、神奈川県が県民ホールを新たにつくることによって、どういう課題を解決したいと考えているかだと思う。今まで使っていたホールが無くなるから再整備しましょうというのもあると思うが、KAAT（神奈川芸術劇場）などもある中で新たにあの場所で何を課題として解決しようと考えているのか。神奈川県が解決しなければならない問題があるはずなので、そのあたりのお考えを聞きたい。

県民ホールの現状と課題と非常に限定的な内容になっているが、神奈川県として大規模な公共施設を新たにつくる以上は、納得のいくものにしなければならない。それは使う人たちが納得するのではなく、県民の皆様が「使わないかもしれないけど、これがあってもいい」と考えてくれるようなホールをつくっていく必要があり、そのための課題意識を2回目に「神奈川県の現状と課題」のような形でお示しいただけるとよいと思う。

それは先ほどもあったように経済的な役割かもしれないし、にぎわいづくりかもしれない。このあたりは特別な地域だが、決してにぎわい豊かな地域とは言えないと思う。その中でホールを整備することの意義があるように思う。横浜市の考えもあると思うので、調整が必要になるだろう。一緒にやらざるをえないと思うが、県としてどう考えているのかを知りたい。

○事務局

第2回で議論の前提となる部分の資料を整理したい。

○宮崎委員

県立というのをどう考えるかはあるかと思う。今各地の自治体は公共施設の設置や改修にあたり、様々な制約や事情に悩まされながらも従来のしがらみや先入観から離れ、特に小さな自治体は地域の未来をその施設に託そうと決意を持って取り組んでいる。

それと全く同じかは今後の議論だが、公共が新しく文化施設を造るならば、先人の経験を活かした上で神奈川県が施設を造ることで、文化芸術に限らない、県あるいは日本や世界の発展や推進役になっていける可能性があることを感じられるような目次になっているとよい。

目次を見ると神奈川県民ホールは文化施設であり舞台芸術と美術のための施設であり、付属品として他の施設があるとはわかるが、付属機能、などと言われている機能が非常に重要だったりするのではないか。現場にいと飲食や広場、託児などではなくてはならないイメージがある。そのことが文化芸術をより豊かにしたり、あるいは文化芸術以外との接点を造っていくことになるので、実際は付属機能だとは思いますが、でもそうではないという視点も大事だと思う。

施設のことは2回ぐらい話をする事になっているので重要に考えているのだろうと、また、基本方針のところを時間をかけて議論を、とお考えだと思うが、どのように議論していったらよいか。例えば、各委員が意見を持ち寄る形なのか、案を基に議論するのか、上位計画にあるものを基本とするのか。それによって時間も変わってくるかと思うが、そのあたりはどう考えているか。

○事務局

第2回に向けては、たたき台みたいなものを示し、それを基にご議論をいただければと思う。

○石田委員

骨子案を拝見し、1から4までと5以降は、少しニュアンスが異なるのかと思う。1から4に関しては県としては大きな宿題だが、次回にしっかりしたものを示していただきたい。それによって議論も深まると思う。

お願いがある。私は劇場や音楽堂に日々行っているが、美術館についてはさほどの知識も経験もない。神奈川県内のホールやアリーナ等の状況の中に、美術館の状況もぜひ明記していただきたい。それらと現在県民ホールが持っていたギャラリーの関係性も分かったうえで議論した方が適切なのではないか。1から4の項目は、知識として補っていただけるような内容になればと思う。

また、全ての委員会に全員が出席できるわけではないと思う。その会で行われた議論の議事録を早々に出して、フォローアップできるようにしていただきたい。また資料は今回のように早く出していただきたいと思う。

また、検討内容について、会議ごとに扱う主な項目に丸がついているが、議論は行ったりきたりすることになると思う。

基本方針について、あまりガッチリしたものだと動きにくくあるという意見もあったが、日本ではこれを達成するためにこれを行う、という考え方を示すのが今一つ苦手なように思う。県としてこのホールをグランドプランの中でどのように位置づけて具体化していくのかは、ここで議論をし尽くす必要があると思う。そのたたきになるような資料を整えていただければと思う。

5以降に関しては、施設整備には非常にお金もかかるがPFIが本当によいのかも議論したいので、いろいろな資料をご用意いただけるといいと思う。

○稲村委員長

議事録や資料の点については、事務局をお願いしたい。

○佐藤委員

建築を専門とするとともに青森県八戸市という人口22万人の地方の美術館で運営に関わっているが、これからの社会を考えると、美術館に興味がある人だけや舞台芸術に興味がある人だけが来るだけでは、こういった施設はだんだんと先細りになっていく可能性もある。県民ホールという名称でこの先の基本構想をまとめていくのか。もちろん伝統ある名称だが、場合によっては、これから違うコンセプトによる何らかの他の名称があり得るのかも、基本構想の中で話ができるとよいと思う。

また、現状の県民ホールに観客として行ったことはあるが、裏方も含めて現状の施設がどうなっているか、見学できる機会を設けていただければと思う。

○事務局

県民ホールの見学については、日程等を施設側と調整してご連絡させていただきたい。

○泉委員

色々な方から意見聞く中で、障がい者の意見も聞いてほしい。障がい者と言っても視覚や聴覚、知的、発達障がいなどいろいろな方がいる。車いす使用者だけでなく広い意味での障がい者の人たちの意見も集めていただきたい。

○宮崎委員

例えば障がいだけでなく、県の状況次第だが、外国人の方や、来てもらいたいけど来ていない人など、色々な層の意見を聞きながら進めるのは大事だと思う。

○稲村委員長

これまでホールに来られなかった方や、来ることにハードルがある方々のご意見も広く聞いていただけたらと思う。

○雲龍委員

専用劇場をいくつかつくってきた経験から、いつも悩まされるのはコストのこと。先ほど笹井委員からも公共性、経済性の話があったが、現時点で費用面の制約があるならば先にわかった上で議論した方がよいのではないかな。それとも考えず議論を進めてよいのか。

○事務局

公共事業なので経済的な要素を気にしなくていいわけではないが、ここで制約を設けることは考えていないので、それを含め議論をいただきたい。

○宮崎委員

例えば我々がものすごく夢を語ってもいいのか、A案、B案、C案にみたいな形にするのか、何も気にしなくてよいのかは議論している中で示していただけると、せっかく話したのに結局は、ということにならなくて済むと思うので、要所でお示しいただきたい。

○小林委員

ぜひ行政の方々も、こうしたいという方向性を明確にしていきたい。皆の意見を聞くのは大事だが、県としてどうしたいかという方向性は一定程度しっかりと出してほしい。内部で議論してこうなった、それに対してどうかという形で議論をした方がよいと思う。

バラバラと意見を言って複数パターンつくったものの結果としてとまらない、ということは避けたい。今回は早くつくることが重要なので、そのためにすべきことは何なのかということを常に見返していく必要があると思う。

○稲村委員長

議論の進め方について、意見をいただいたが、これに追加したいものはないか。

では、次に特別委員について、ポップス、クラシック&オペラ、バレエ、共生共創、美術、横浜市の文化団体が挙げられているが、ご意見をいただきたい。

○宮崎委員

特別委員の方にはご出席いただき我々から質問をしていくことになるのか、それとも委員の一員のような形で参加されるのか。

○事務局

委員の皆様プラスして、特別委員の方々にも一緒に議論をしていただきたいと考えている。

○小林委員

県と政令指定都市がよい関係を持つことで、まちづくりが一気に進むところをこれまでも見てきた。

横浜市でもまちづくりで考えていることがあると思うので、横浜市のまちづくりの正式発表を待ち、それを受けるだけではなく、整備の検討段階から一緒にやっていると良いと思う。

○事務局

横浜市との関係について、今回のまちづくりに関しては、早い段階から定期的に横浜市と県で相談を行っている。適宜意見交換もさせていただき、横浜市のお考えもお聞きしているので、足並みを揃えて進められているのかと思う。

○石田委員

特別委員について、3回の出席を予定されているが、それぞれ全員いらっしゃるのか、それとも専門の話をする会のみにお呼びするのか。

○事務局

ご都合のつく限り各回全員にご参加いただければと思う。

○石田委員

そうなるとうれしい意見や要望がたくさん出てくると思うので、時間がかかりそう。委員長は交通整理が必要になるかと思う。

公演等を主催する側の意見は重要。多くのジャンルの特別委員がいらっしゃるの

で、大変期待している。

これは要望だが、県の中に技術の専門家が入っていることは承知した上で、さらにプロデュース側だけでなく、技術者の意見もぜひ聞いていただきたい。日本の劇場はハードとソフトが分離して整備されてきており、技術面のノウハウは民間に蓄積されている。例えば舞台監督集団などが全国の館の事情を一番よく知っている。他館や海外の舞台を持ってくる時に現場でどう落とし込むかなども聞いて、十分に把握することが、このホールの未来を語るに相応しいと思う。

限りなくハイスペックなものを求めるのではなく、最大公約数を知りたい。そのために、そういった人たちの話を聞くことが必要だろう。

この場で話を聞くのが望ましいかの判断はあるが、少なくともヒアリングをしにいく相手先に加えていただきたい。そうすると今度は舞台裏が広くなりすぎたりするかもしれない。そこはバランスをとりながら、観客や主催者側から、そして技術者側からの意見も聞いてほしい。

○小林委員

特別委員に障がい者の方や、施設で日常的に接している方に入っていてはどうか。舞台に上がる側で利用される方もいらっしゃるだろうし、観客として利用される方もいるだろう。日本のホールは観客に対して冷たいなといつも感じている。こういう場で主催者側の意見は聞いてくれるが、実際にきてみたら座りにくい、観にくい、階段の段差や勾配あり歩きにくいなどがある。

理念的には全ての人に優しい劇場を作ることになるので、身体的なバリアフリーの問題だけでなく、知的な障がいを持っている人が、例えばサポートによって観られる場合もあるが、ハード面で最初におかねばならないこともあると思う。健常者の側からは見えにくいのが、本当はこうしてほしいということがあると思う。ホールに勤める方に伺ったことがあるのは、積極的に来てくださいと、ピンポイントで連絡すると来ていただける。しかし誰でも来てください、とポスターで掲示するだけでは誰も来ない。劇場をつくるときに特別委員としてそういう方に関わっていただくと利用が広がると思うので、ぜひ選定いただけるとよいと思う。

○稲村委員長

共生共創の部分でそういった方をというイメージでよいかな。

○事務局

そういうイメージでよい。

○金田委員

私が公募委員に応募した背景は、子どもたちに県民ホールが身近な存在になってほしいという想いがある。特別委員とは立ち位置が違うかもしれないが、高校生や大学生で舞台や演劇など文化活動をされている方が参加し、不都合を感じた点などを共有できると良いと思う。

○稲村委員長

議題3と4についてまとめていきたい。

議題3では、前半に、まちづくりの話、社会的な役割の話があり、取り巻く環境や地域連携の話など、目次には書かれていないことについても話があった。再整備の基本方針が重要になることや、文化施設の新しいあり方についての意見もあった。また、ホールだけでなくギャラリーも含めて検討できればと思っている。

ヒアリングについては、幅広く、障がい者の方や在住外国人の方、高校生、大学生や将来使う側観る側の方々に聞くようなことが必要かと思う。また、特別委員の各ジャンルの方の意見に加え、ヒアリングで技術者の方にも意見を聞くことについて、委員会としてお願いしたい。

最後に付け加えたいことはあるか。

○宮崎委員

「9（1）新県民ホール建替え期間中の代替施設等」とあるが、県民ホールが閉まっている間の議論なのか、あるいは新しいホールが見えてきたところでそれをどうしていくかという議論をするのか。すでに県民ホールは休館しているが、どのようなことか。

○事務局

3年前から県民ホール内、KAAT（神奈川芸術劇場）内に社会連携ポータルを立ち上げている。神奈川県が「ともに生きる」ということや「未病」や「共生共創」「いのち輝く」と言葉を出しているが、これらの言葉は、小屋が文化芸術的に公的に経営されるためのキーになると考えている。

神奈川県には33の基礎自治体があり、全部回ろうと思っている。コミュニティセンターや市営の文化会館や芸術劇場などと、ともに作品を創ろうと3年ほど時間を費や

して徐々にやっている。その形がここにきて生きてきているという実感はあるが、まだどういう形になるのかの先は見えていない。

休館前から休館後のことを考えてきたが、私たちは33市町を3から5年かけてくまなく毎年回することで、県全域の文化のありようを顔と顔、組織と組織で関係を作りたい。組織に繋がりそこで公演されている独自の団体や教育委員会などとの関係を結びたい。その立体的な関係の中で県民ホールの形が見えてくるのではないかと考えて走りながら考えようとしている。

私は県民ホールと神奈川芸術劇場の館長を昨年まで兼ねており、今は総支配人という形で携わっている。

今後、休館したあとのスローガンとして、「シアター・ウィズアウト・ウォールズ」をテーマにしようと考えている。スコットランドの国立劇場がそれをキャッチフレーズにして運営している。ただ壁が無いというだけでなく、自分たちの劇場も持っていない。そのような状況に私たちも置かれており、日本型のシアター・ウィズアウト・ウォールズを経験することで拠点としての県民ホールが持てると思っている。成果はあがってきている。

県民ホールの事業実績の一例として、ダンサー、振付家の安藤洋子さんに依頼し、60歳以上の高齢者の方と共に新たなダンス表現を創り出すプロジェクトがある。県内全域から応募・参加していただき、最初は「歩く」という動作から始まり、3年目となる昨年には小田原でダンス公演を行った。その作品がE.U.で評価され、「安藤洋子さんがE.U.に行き、同じプログラムを行う」という形で作品が購入された。

県が企画をし、県の全域から県民が集まり、稽古を重ね公演にするまでに3年かかり、そのシステム自体が評価されE.U.文化首都という巡回型の芸術祭に購入された。それはすごいことだと思う。

来年や再来年にはドイツから他の街へ回っていくと聞いた。そういった意味で私たちの向かっている方向は間違っていないと思っている。

○宮崎委員

今聞いたように施設がないと何もできないわけではなく、色々なことができる。ただし、それは施設がなくてもよいというわけではないのは確認しておく必要があるかと思う。もともと施設があり、そこを運営している人たちだからこそできていることだと思う。新しい文化施設のイメージを話す上でそういう取組も県内で始まっている

ことは聞けてよかった。

○石田委員

県の状況を話し合う場として、神奈川県文化芸術振興審議会でも、ここでの議論をぜひ共有して、お互いの議論が分かるようにしていただけたらと思う。

3 閉 会

○稲村委員長

以上で本日の議論は終了する。